

◆ 平成30年度活動報告シート ◆

団体名：NPO法人 鴻巣こうのとりを育む会

21A-17

代表者：代表理事 伊藤 鑄義

URL :

1. 活動が必要とされた状況

対象ビオトープは7年前コウノトリの餌となる生き物の推移を見るため整備したが、アメリカザリガニが生息する状態となり、ほかの水生生物を捕食するようになる。このため、市内幼稚園児を対象にザリガニ釣りの体験と自然学習の場所として位置づけ活動してきた。一方、施設は経年により池の周囲や安全柵が劣化してきた。園児が安全に体験学習を行うには施設の補修を実施する必要性が生じてきた。



2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）



アメリカザリガニが活発に活動する時期は、4月から10月上旬である。この間に市内幼稚園児が、自然に親しみザリガニ釣りを体験することが可能である。毎年3園ほどの幼稚園、保育園の園児150名余が訪れてくれる。施設補修は、これを避けて行った。大部分は専門業者をお願いしたが、一部は会員で作業を実施した。来期からは園児が自然に触れあい、ザリガニ釣りが体験できる安全な施設となった。

3. 活動の成果

自然の中で、先生が楽しみながら園児に接する姿を拝し、当会の会員も微笑みが絶えず楽しい時間を毎回与えて頂いている。最初はザリガニの近くにも近づけず逃げまわる園児もいるが、帰る頃には自分で掴む事が出来るようになる。中には熱中しすぎて池にはまる園児も毎回一人は現れる。このような、体験を通して外来種の話やコウノトリも棲める自然環境の大切さ等々覚えたことは、大きくなって思い出として残ることと思う。そして、園児たちが、いずれは同様の活動をしてくれることを願っている。



4. 今後に残された課題

アメリカザリガニは、外敵が少なくその繁殖力はすごい。一度の産卵で500から800個の卵を産むと言われている。幼少のアメリカザリガニはヤゴに捕食されるが、大きくなるとヤゴを捕食する。ビオトープでのザリガニ釣りを続けながら、生き物の生息数がバランスよくなるようトラップ等を使い観察を続ける必要がある。